

【格付維持/新規格付】 水資源機構発行体格付： AA+ [格付の方向性：安定的]
第7回水資源債券： AA+

格付投資情報センター(R&I)は上記の格付を公表しました。

【格付理由】

国の基本計画に従って利根川などの7つの水系で、治水や利水など多目的に役立つダム、用水路などの施設を建設・管理する独立行政法人。治水は国民の生命や財産の安全に直結し、利水も国民生活や産業、農業に必要不可欠であるなど、治水・利水事業の公共性は高く、機構の役割は引き続き重要である。建設費用は主として国からの交付金・補助金と機構自らの調達資金で賄い、建設完了後、機構の立て替え分は利水者から割賦負担金という形で回収している。利水者のほとんどは地方自治体であり、回収に伴うリスクは極めて小さい。金利変動リスクに対しても、積立金が厚く、耐久力がある。

2009年9月に発足した鳩山民主体政権はダム建設など大型公共事業の見直しを進めており、2015年度まで続く予定である機構の建設事業についても中止を含めた検討が行われる可能性がある。建設事業が終了して管理主体の法人に移行することに伴う政府における機構の位置付けや政府の支援姿勢が従来と変化する可能性については、一定程度格付に織り込んでおり、格付の方向性は安定的としているが、政府が2010年度もダム建設事業について、どのような基本方針を打ち出すか、注視を怠れない。

今回、国の方針で機構が建設中のダム建設が中止になったとしても、制度上は、事業に参加した関係者でこれまでにかけた費用を負担することになり、機構が何らかの費用負担を強いられることは基本的にないとみている。とはいえ、国の方針によって建設が中止される可能性が生じたというのはこれまでにないケースであり、仮に中止となった場合、機構が財投借入金などの形で立て替えている部分の費用負担のあり方については不確定な面があることも否定できない。費用負担の具体的なルール作りなどの状況についても注視していく。

当該格付に適用した主要な格付方法は「政府系機関の格付の考え方」である。この格付方法は、格付を行うにあたり考慮した他の格付方法とともに下記ウェブサイトに掲載している。

<http://www.r-i.co.jp/jpn/rating/rating/methodology.html>

【格付対象】

発行者：水資源機構

名称	格付	格付の方向性		
発行体格付	AA+ (維持)	安定的		
名称	発行総額 (百万円)	発行日	償還日	格付
第1回水資源開発債券	10,000	2001年12月3日	2011年9月20日	AA+ (維持)
第2回水資源開発債券	13,000	2002年6月24日	2012年6月20日	AA+ (維持)
第3回水資源開発債券	13,000	2003年7月1日	2013年6月20日	AA+ (維持)
第1回水資源債券	15,000	2004年11月19日	2014年9月19日	AA+ (維持)
第2回水資源債券	5,000	2005年10月27日	2009年12月18日	AA+ (維持)
第3回水資源債券	10,000	2005年10月27日	2015年9月18日	AA+ (維持)
第4回水資源債券	11,000	2006年11月9日	2009年12月18日	AA+ (維持)
第5回水資源債券	15,000	2007年11月6日	2010年12月17日	AA+ (維持)
第6回水資源債券	9,000	2008年12月4日	2011年12月20日	AA+ (維持)

〈新規格付対象〉

名称	第7回水資源債券
発行額	70億円
発行日	2009年11月19日
償還日	2012年12月20日
表面利率	0.53%
格付	AA+ (新規)
受託会社	みずほコーポレート銀行
担保	一般担保付
備考	会社法の規定に基づく社債管理者ではなく、独立行政法人 水資源機構法に基づく受託会社が置かれる

☆発行体格付は、発行体が負うすべての金融債務についての総合的な債務履行能力に対するR&Iの意見である。発行体格付は、原則としてすべての発行体に付与する。個々の債務等の格付は、契約の内容や回収の可能性などを反映し、発行体格付を下回る、または上回ることがある。